

日本で外国語として教えるスペイン語における 非言語コミュニケーションの意義

— 非言語：言語以外の表現 —

平根カルメン

要 旨

スペイン語圏の人々とスペイン語でコミュニケーションをとる時には、言葉だけではなく、ジェスチャー等非言語コミュニケーションを理解しなければスムーズにいかない。

しかし、日本でのスペイン語教育は文法、会話が中心で、今まで非言語コミュニケーションを重要視していなかったが、今後学生達が世界に出て、スペイン語を使ったコミュニケーションをとる場合にこの非言語コミュニケーションの必要性を理論と実践を交えて述べていく。

キーワード：非言語コミュニケーション

1. はじめに

外国語としてスペイン語を学んだ学生たちは、学校またはスペイン語圏の国々で、スペイン語のネイティブの人たちと交流するときに大きな壁にぶつかることがある。

その壁の1つは非言語コミュニケーションを理解できないことによるものと考えられる。スペイン語を教えている現場で、日本では、外国語を学ぶのに、文法やコミュニケーションが第一であり、この非言語コミュニケーションをもっと大切に学ぶ必要があると感じた。このため必要なことは、語用論 (pragmático)、文化、社会、地理学を理解することである。

語用論 (pragmático)：生きている言葉、現代使われている言語、言葉の使い方。

文化：母国語以外の言語を学ぶときには、その国の文化も同時に学ぶこと。

社会：表に出てこない、中の見えないルール

を理解すること。

地理学：スペイン語圏の国々を知る、その国々独自のスペイン語の使い方や非言語コミュニケーションがあることを知ること。

非言語コミュニケーションは話し言葉ではなく、声を使わないコミュニケーション（身振り手振り）であり、このコミュニケーションは視覚、触覚、嗅覚を用いる。これは、スペイン語圏で日常的にコミュニケーションをとる際によく使われ、この非言語コミュニケーションを知らないことで事実や状況を誤解したり、相手に誤解されることや身の危険にさらされる場合もある。

したがってこの論文では、学生たちがこのような状況をさげ、よりよいコミュニケーションが取れるように非言語コミュニケーションについて考察する。

2. スペイン語の非言語コミュニケーションの現状

学校で非言語コミュニケーションがあまり重要視されていない結果、スペイン語を学んでいる学生はスペイン語のネイティブやスペイン語社会においてコミュニケーションをとる場合スペイン語圏の文化、社会を知らずに問題や誤解を引き起こすことがある。

例えば、

- ・日本では親指と人差し指を使って円をつくりお金を表すが、ペルーではとても悪い意味であり恥ずかしい意味となる。
- ・スペイン語圏では会話中に目を合わせないと、話に興味がない、だらしがない、聞いてないと誤解される。
- ・日本では会話の相手（目上の人、既婚者、未婚者など）によって呼び方やしゃべり方が違うが、スペイン語には立場や身分の違いによって使う言葉の差がほとんどないのでスペイン語圏の人々は気にせず話したり非言語コミュニケーションを使用する。しかし日本人は気にして失礼がないようにとしゃべらなくなってしまう、そのことによって、日本人が内気だと誤解されてしまう。
- ・日本人にはよくわからない非言語コミュニケーションが表現されたときに、意味が分からなくてもあいまいなままにしておくことが多いので、コミュニケーションに支障が起きてしまう。
- ・日本では会話中に相槌を打つが、スペイン語圏では相槌を打たずに相手の顔を見ているだけなので、日本人はスペイン語圏の人が話を聞いていないと勘違いする。

今まであげた例は一例にすぎない。最後のページに学生が知っておくべき非言語コミュニケーション

を添付する。

3. 非言語コミュニケーションの理論と現代の比較

a. 非言語コミュニケーションの理論

非言語コミュニケーションは視覚、触覚、嗅覚によって表され、同じメッセージでも、話し相手の文化によって解釈が異なる。そのため、非言語コミュニケーションの機能は多機能である。(参考：セステル2005-9581988-11)

例えば、視覚で表されることは

- ・言葉で“いいえ”と言いさらに頭を左右に振ることで言葉の意味を確認し情報を追加することが可能になる。
- ・声を発して別れの挨拶をする代わりに手を振る。
- ・微笑むこと、聞く姿勢を変えること、視線を合わせることで、話を切り出す事や、より会話に参加しやすくなり、また会話の雰囲気を変えることの助けになる。

b. 文化的背景

非言語コミュニケーションはそれぞれの国の文化や環境における行動の習慣に深いかわりがある。

例えば、

スペイン語圏では昔から生活の中心はplaza mayor（広場）であり、その周りに教会、市役所、銀行、映画館、警察、店舗などが集まりコミュニティを作っているのは自然とそこに集まり、知らない人同士でもコミュニケーションをとる文化がある。現在の日本では行動の中心は駅の周りであり、知らない人同士がコミュニケーションをとることはほとんどないようである。

c. 現状における非言語コミュニケーションと

実例

(1) 言葉遣いの特徴

言葉遣いには、音質、生理学的および感情的な側面、Quasi-lexico要素、そして沈黙が含まれる。

音質は、場面ごとに声色や音程で、喜びや怒り、失望などを示す。

生理学的および感情的な反応（泣き、笑い、苦しみetc.）を無意識で示す。

Quasi-lexico要素は擬声語、間投詞、音の放出である。例えば、口笛やあえぎ、そして“uff”, “pss”のような音は、意味を持たないが、コミュニケーションの中で大きな役割を果たしている。それぞれの文化は自身の音を持っており、その音はそのコミュニティーにのみ認識される。例えば、“ohh”, “aww”はスペイン語圏では使うが、日本では使わない。また、擬声語は言語によって異なる。例えば、犬の鳴き声は日本語で「わんわん」、英語で「bow-wow」、スペイン語で「guau-guau」/グアウ-グアウ/である。

沈黙については、スペインと中南米の文化には、会話中に沈黙がなく、もし沈黙がある場合は会話に参加している人全員で沈黙がないように努めるが、日本では会話中の沈黙は当たり前である。日本に住むスペイン語圏の人々はそれを居心地悪く感じ、沈黙を埋めなければならないと感じている。

(2) キネシカ (quinésica)

キネシカとは主語を明記する体言語と呼ばれており、コミュニケーションの価値を持っている無意識または意識した身体の動きや姿勢のことである。

キネシカは、ジェスチャー、マナー、姿勢に分類される。

a. ジェスチャーは顔または身体の動きであり、人々は顔の表情で「喜び」、「驚き」、「怒り」

などの気持ちを伝えることができる。そして身体のジェスチャーは、メッセージを伝えることができる。

例えば、「否定、肯定」するとき頭を振り、「別れの挨拶」で手を振る。

南米文化では、「わからない」や「知らない」を伝えるときに肩を上げ、「周りの様子をうかがうとき」横目で見、誰かに伝えたいときに目配せ（ウインク）をする。

文化はそれぞれ、独自のジェスチャーを持っている。この独自のジェスチャーを授業に取り入れることで、誤解や問題を避けることができるのではないかと考えている。

b. マナーにおいてはそれぞれの文化によって様々である。

例えば、

日本の挨拶は手を振るか、お辞儀をする。（身体を接触させない）

スペインの挨拶は、お互いがお互いの左右の頬にキスをし、男性同士の場合は握手をする。

中南米の挨拶はお互いがお互いの片方の頬にキスをし、男性同士の場合は握手をする。

食事の仕方は、日本ではお箸を使い、スペインや中南米ではスプーン、フォーク、ナイフを使う。

「親愛」を表すとき日本では手のひらで頭を撫でる。しかし、南米ではこの行為をすると気分を害する。

私たちが学生に伝えなければならないのはこれらのマナーである。

※ 非言語コミュニケーションの例、ジェスチャー（イラスト）を参照。

c. 姿勢は人の個性を表し、コミュニケーションにとって大切である。

例えば、日本人はあまり目立たないようにしているので自信がないのか、怖がっているかと、とられている。外国人はどうどうとしてすきがないように見える。

(3) プロクセミック (proxémica)

コミュニケーションにおける相手との距離、位置などの物理的な空間についてである。

例えば、

ヨーロッパ諸国ではレストランで空いているテーブルがないときに見知らぬ相手と相席することは珍しくはない。

(4) クロネミック (cronémica)

人々が持っている時間に対する概念である。

例えば、

日本では集合時間の5分前には集合場所に着いていたり、電車の時間は分単位で正確である。しかし、多くのヨーロッパ、中南米諸国では、場面にもよるが時間に正確ではなく、遅れるのが当たり前である。

4. 結 論

日本でスペイン語を教えている私の経験から考えてみると、その壁は非言語コミュニケーションを理解できないことによるものであり、そのためには日本の教育現場では非言語コミュニケーションをもっと大切に教える必要があると考える。

今後のスペイン語学習の目的の1つは、特殊な非言語の知識を学生に伝えることであり、学生たちに非言語コミュニケーションの大切さを理解してもらおう事と考える。

日本の教育現場では文法と会話が中心であり、非言語コミュニケーションはあまり重要視されていないようで、スペイン語圏の人とコミュニケーションをとる学生は、非言語コミュニケーションが表現された時に理解できず、誤解して問題を起し支障が起きることがある。

学生は言語学習において、自国の文化と学習している言語の国の文化を比べながら、さらに言語を理解することができるように、外国語教師は、

学生が自国とは違った文化を理解し、誤解や問題が起こることを避けるためにも非言語コミュニケーションにおいて重要な役割を担っていることを認識する必要があるだろう。

5.

(a) 非言語コミュニケーションの実践

対象 : スペイン語を学んでいる学生

テーマ : スペイン文化の挨拶

レベル : A1 (初級)

目的は、生徒がスペイン文化の挨拶の仕方やタイミングのとり方、雰囲気を経験すること、そしてネイティブレベルで使用する挨拶に精通することである。

1. 先生は生徒にスペイン式の挨拶の説明をする。

- A-① 女性同士は左顔にキス右顔にキスし、
- ② 男性と女性は頬にキスで挨拶する、
- ③ 男性同士握手。

2. 具体的な挨拶を教える「先生は一人の生徒にスペイン人になりきって挨拶する」。

挨拶の仕方

A: ¡Hola Keiko! 「やあ けいこ！」

B: ¡Hola Carmen! 「やあ カルメン！」

A: ¿Cómo estás? 「元気かい？」

B: ¡Bien, ¿y tú? 「元気よ、あなたは？」

A: ¡Bien, gracias! 「元気よ！」

3. そして生徒同士で実践する。

- a. 挨拶のポイントは相手の目を見て、笑顔、元気で挨拶する。
- b. 習慣付けるために毎回授業の始まりには挨拶する。

実践結果

最初の授業では初めての経験だったので、生徒は大変恥ずかしそうで、強く促されて、練習をはじめた。

目（アイコンタクト）の授業ではまだ挨拶の仕

方を忘れていたりする生徒もいて、苦手を感じる生徒が見られた。

授業では生徒同士（日本人対日本人）だったのでスペイン文化式挨拶が苦手と感じているか、日本人同士で恥ずかしさがある可能性がある。

A-①



②



③



<https://www.google.co.jp/imgres?> (2017年10月18日)

(b) 非言語コミュニケーションの例。[(1)~(6)]

(1) 静かに



(2) 食べましょう



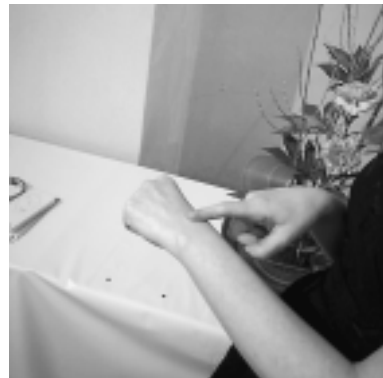
(3) 頭がおかしい



(4) 知らない (関係ない)



(5) 何時ですか?



(6) ジェスチャー

GESTO	DESCRIPTION
<p>1</p>  <p>PULGAR ARRIBA</p>	<p>En muchos países, levantar el pulgar significa "bien hecho" y es utilizado habitualmente por autoestopistas, pero si lo utilizas en Grecia, Rusia, Cerdeña o el Oeste de África estarás insultando al receptor: "que te den" En Arabia Saudí supone un insulto grave.</p>
<p>2</p>  <p>Signo de V</p>	<p>Mucha gente utiliza este gesto como "victoria" o "paz" en EEUU o simplemente para referirse al número dos (p.ej. "quiero dos de esto"), pero utilizarlo en Gran Bretaña, Australia, Irlanda o Nueva Zelanda con la palma de la mano dirigida a tu cara es una grosería.</p>
<p>3</p>  <p>A ok</p>	<p>En EEUU significa que todo marcha sobre ruedas, pero en Rusia, Brasil, Turquía y el Mediterráneo significa "eres homosexual". En Francia y Bélgica significa que el receptor no vale nada.</p>
<p>4</p>  <p>Stop!</p>	<p>Si estás en Grecia no le digas a alguien que se pare levantando la mano con la palma hacia fuera y los cinco dedos hacia arriba. Le estarás diciendo que se vaya al infierno.</p>
<p>5</p>  <p>HEAVY METAL</p>	<p>Jenna Bush salió en Televisión en Noruega haciendo este símbolo de orgullo Tejano sin darse cuenta que estaba diciendo a todo el Mediterráneo que sus cónyuges estaban siendo desleales. El signo significa cornudo y es popular en España, Portugal, Grecia, Colombia, Brasil, Albania y Eslovaquia.</p>

ヒッチハイクで使うが、ギリシャ、ロシア、サルデーニャ、アフリカ西部では侮辱に受け取られる。サウジアラビアでも悪い侮辱に取られる。

アメリカで勝利と平和に使われるが、イギリス、オーストラリア、アイルランド、ニュージーランドでは不作法と受け取られる。そして南米ではテロリストを意味する。

アメリカではOKの意味で使われるが、ロシア、ブラジル、トルコ、地中海では同性愛につながる意味で使われる。フランスとベルギーでは君が価値がないの意味で、ベルギーでは売春の意味になる。

ギリシアでは地獄へ行きなさいの意味である。

地中海では配偶者が不実の意味である。

www.PimsleurApproach.com (2017年9月19日)

【参考文献】

CESTERO, A.M. Y GIL BÜRMAN, M (1955)

“Comunicación no verbal: algunas diferencias en la concepción, la estructuración y el uso del tiempo en India y en España, I”.

(“非言語コミュニケーションの概念やメカニズムの違い、そしてスペイン、インドの時間使い”)

MARÍA GIL BÜRMAN (2015-2016) X EXPERTO

UNIVERSITARIO: “El componente socio cultural en la enseñanza del español como L2”

(外国語としての社会文化的スペイン語教育)

Tema estudiado en la Universidad Nacional de Educación a Distancia de España, UNED

(このテーマはスペインの通信教育大学の科目としての非言語コミュニケーションの講座より)

La Comunicación No Verbal